

「全國農民組合の革命論も益々益々農民組合の意識を鼓舞する」  
日本決議論中決意書に對する意見

明治三十八年六月  
新 報

農民組合  
法入協  
調會

一、全農とは何か

我々は本誌第三十七號に於て「全農戰闘化協議會は如何にすべきか」に關して述べた。その中で我々は、全農は現在のまゝでは革命的組合と云ふことは出来ない。とは雖もその成員の階級的多數が革命化し得る負農から成されて居り、日農以來戰闘的傳統を持つて農民總同盟、日本農民組合同盟の如き左翼組合に獨立抗争して來た。而して、現在各縣に於て現實に革命化しつつある負農の先頭に立つて勇敢な闘争を實行してゐる。故に全農は當然全体として革命化し得る組織である。我々はこれを全体として革命化しなければならぬ。その爲には左翼は全農内部に宗派的な小集團を成ることに依つて廣汎な大衆を右翼の指導下に殘して分裂する様な方向を取つてはならぬと云ふことを警告した。この警告に従つて當時宗派的なグループに附つてゐた農民組合は自己批判を遂行し、我々の農友細胞の組織及農民組合内のフランクシヨンを確立すべきことが最も重要な緊急な任務なることを指示し